

学校だより



津市立櫛形小学校
R5.9.8発行
第8号文責：校長

☆☆2学期が始まりました☆☆

42日間の夏休みが終わり、2学期が始まり1週間が経ちました。誰一人、事故に遭うことなく、全員がそろって2学期を迎えられたことを嬉しく思います。

夏休みモードから学校モードへの切り替えの1週間。汗をかきながら、元気に登校する子どもたちの姿に元気をもらっています。2学期は全校で臨む「くしがたコンサート」、それに続く「津市音楽会」、そして5年生はキャンプ、6年生は修学旅行と大きな行事があります。様々な行事を体験することで、子どもたちがそれぞれの成長に繋げていってほしいと思っています。



保護者のみなさま、そして地域の方々、1学期に引き続き、2学期も学校教育へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆☆こんなときだからこそ、大事にしたいこと☆☆

津市内でコロナウイルス感染症やインフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖が出ています。

そして社会に目を向けると、福島原発の処理水放出をめぐって新たな風評被害が出たり、ロシアのウクライナ侵攻が物価高に拍車をかけたりと、なかなか落ち着いた社会状況が続いています。こんな状況の中、どんなタイプの人々が平常心を保ちながら生活できるのでしょうか？

以前、あるテレビ番組で作家の五木寛之さんの著書の一節が取り上げられていました。とても印象的だったので、紹介したいと思います。

たとえば、南極でテント生活をしていると、どうしても人間は無精になるし、そういうところでは体裁をかまう必要がないから、身だしなみということはほとんど考えなくてもいいわけです。にもかかわらず、なかには、きちんと朝起きると顔を洗ってひげを剃り、一応、服装をととのえて髪もなでつけ、顔をあわせると「おはよう」とあいさつし、ものを食べる時には「いただきます」と言う人もいます。こういう社会的なマナーを身につけた人が意外にしぶとく強く、厳しい生活の中で最後まで弱音を吐かなかった、というわけです。

これはおもしろい話だと思います。礼儀、身だしなみ、こういうことは極限状態のなかでは最後に考えることのような気がします。

しかし実際には、そういうなかで顔をあわせたときにきちんと「おはよう」とあいさつできるような人、「ありがとう」と言えるような人、あるいは朝、ほんのわずかな水で顔を洗い、ひげも剃って、それなりに服装をととのえ、そして他人と礼儀を忘れずに接するという、小さいときからの自分の生活態度をずっと守りつづけたようなタイプの人のほうが、むくつけき頑強な熊のような大男よりも、かえって最後までがんばり抜いて弱音を吐くことがなかったそうです。

(「大河の一滴」 五木寛之：幻冬舎文庫 より)

「小さいときからの自分の生活態度をずっと守りつづけた・・・」とあるように、このような「当たり前」の生活態度を学校、家庭、地域と協力して子どもたちに身につけさせることの大切さを改めて感じました。是非、このような社会状況だからこそ今後も「挨拶」をはじめ、人とのコミュニケーションを大切にしたり、あらゆる人・物・事に感謝をする心など、人として社会の中で生きていくために大切なことを子どもたちに育んでいければと思います。

♡♡ 子どもたちのためにありがとうございます ♡♡

第2回 PTA 奉仕作業 大変お世話になりました



8月26日（土）、第2回 PTA 奉仕作業が早朝より行われました。地域の方による草刈りは6時30分スタート。体育館や校舎の裏、プール周辺、通学路まで、大変きれいに草を刈っていただきました。その後、7時30分からは神戸スポーツ少年団の方々やおうちの方々ともどもたちも一緒になって、草集めや運動場の草取りをお世話になりました。ゴミ袋がどんどん増えてどの場所もとてもきれいになりました。子どもたちが気持ちよく安全に活動できるようにと、多くの方々にご協力いただき、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



稲刈り体験・・前川農産さん、ありがとうございました

5月に田植えをさせていただいた田んぼで、9月7日（木）に5年生が稲刈りをさせていただきました。今回も前川正次さんをはじめとする前川農産の方々、JA 津安芸の方々、10名に来ていただき、のこぎり鎌での稲刈りを体験させていただきました。「稲の根元を持ってのこぎり鎌を当てて手前に引く」ことを教えていただき、初めは慣れない手つきで恐々だった子どもたちも、後半には鎌の扱いにも慣れて手際よく稲を刈り取っていました。

コンバインで稲を刈る様子も見せていただくと「現代にワープや！」と機械のありがたさを実感している子どもたちでした。最後は雨が降り出してしまいましたが、天気を見ながら、短時間で内容の濃い学習をさせていただきました。できたお米は精米していただき、10月の5年生のキャンプでさっそく使わせていただきます。田植えから収穫に至るまでの水の管理や草刈り等、大変お世話になったことに感謝してできたお米をいただきます。本当にありがとうございました。



「なすずこのっぺ？」 濱地 重遠さん ありがとうございます。

「なすずこのっぺ？」は絵本の題名です。虫さんが地面から生える小さな芽を見つけた時の、昆虫語のセリフで「これはなに？」という意味だそうです。

7月20日、終業式の日、殿舟団地にお住いの濱地さんから不思議な植物の苗、名付けて「なすずこのっぺ」をいただきました。「心を込めて、お世話をするとうまいんだよ」と言われると、子どもたちは濱地さんに教えていただいた通り、丁寧に苗を植えた後、声掛けをしながら水をあげました。

そして2学期始業式の日、自分たちの想像をはるかに超える「なすずこのっぺ」の成長ぶりにびっくり！！ 興味津々でお世話を続けています。

さあ、今後「なすずこのっぺ」は・・・？



7月20日



9月7日